



デバイス プールの設定

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[デバイス プールの設定値](#)」(P.8-1)
- 「[デバイス プールの該当デバイスとの同期化](#)」(P.8-17)
- 「[関連項目](#)」(P.8-18)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[システム レベルの設定](#)」の章を参照してください。

共通デバイス設定パラメータの設定の詳細については、「[共通デバイス設定](#)」を参照してください。

デバイス プールの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] メニュー パスを使用して、デバイス プールを設定します。

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性がまとめて指定されます。デバイス プールの構造では、ユーザ情報と位置情報の分離が可能です。デバイス プールには、システム、デバイス、および場所関連の情報が格納されています。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] にある [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウには、使用されるソフトウェアテンプレートの種類、ロケール情報などの、ユーザ向けの情報がすべて記録されます。ユーザ向けの情報を得るためには、各デバイスが、デバイス プールに関連付けられ、共通のデバイス設定に関連付けられている必要があります。

デバイス プールの設定のヒント

新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、会議ブリッジ、トランスコーダ、メディア ターミネーション ポイント、ボイスメール ポート、CTI ルート ポイントなどのデバイスを設定できます。

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager グループ (必須)。「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定値](#)」(P.4-1) を参照してください。
- 日時グループ (必須)。「[日時グループの設定値](#)」(P.6-1) を参照してください。
- リージョン (必須)。「[リージョンの設定値](#)」(P.7-1) を参照してください。
- SRST 参照先 (オプション)。「[SRST 参照先の設定値](#)」(P.16-1) を参照してください。

- メディア リソース グループ リスト (オプション)。「[メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.55-1\)](#)」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。「[コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.41-1\)](#)」を参照してください。
- 復帰コール フォーカス優先度 (オプション)。「[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)」の「[保留復帰](#)」の章を参照してください。
- デバイス モビリティ グループ (オプション)。「[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)」の「[デバイス モビリティ グループの設定](#)」を参照してください。
- デバイス モビリティ コーリング サーチ スペース。「[コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.41-1\)](#)」を参照してください。
- 物理ロケーション (オプション)。「[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)」の「[物理ロケーションの設定](#)」を参照してください。
- ロケーション。「[ロケーションの設定値 \(P.15-1\)](#)」を参照してください。
- AAR グループ。「[AAR グループの設定値 \(P.26-1\)](#)」を参照してください。
- AAR コーリング サーチ スペース。「[コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.41-1\)](#)」を参照してください。

デバイス プールの削除のヒント

デバイスが割り当てられているデバイス プール、[[デバイスのデフォルト設定 \(Device Defaults Configuration\)](#)] に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールなどは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。「[電話機の設定値 \(P.67-3\)](#)」を参照してください。
- 削除を予定しているデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。「[電話機の設定値 \(P.67-3\)](#)」を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作 \(P.1-13\)](#)」およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 8-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.8-18\)](#)」を参照してください。

表 8-1 デバイス プールの設定値

フィールド名	説明
[デバイスプールの設定 (Device Pool Settings)]	
[デバイスプール名 (Device Pool Name)]	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。50 文字まで入力でき、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、およびブランクを含めることができます。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。Cisco Unified Communications Manager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco Unified Communications Manager はそのグループのプライマリ Cisco Unified Communications Manager となり、残りは冗長性を確保するためのバックアップ Cisco Unified Communications Manager となります。
[自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)]	Cisco Unified Communications Manager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスに割り当てる、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
[付加 CSS (Adjunct CSS)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) 機能の付加 CSS としてこのデバイス プロファイルのデバイスに使用する既存の Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します (新しい CSS を設定したり、既存の CSS を変更したりするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します)。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。</p> <p>EMCC 機能を設定する場合は、管理者が各リモート クラスタのデバイス プールを設定する必要があります。リモート クラスタが別の国に存在する場合、付加 CSS にはその国の緊急パターンが関連付けられているパーティションを含める必要があります。この設定により、国別の緊急コール ルーティングを容易に確立できます。</p> <p>付加 CSS の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」の章の「EMCC コールルーティング」を参照してください。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)]	<p>保留復帰機能から起動される復帰コールに対する、クラスタ全体の優先度設定を選択します。この設定によって、どのコールタイプ（着信コールか復帰コール）がユーザの操作（オフフックにするなど）に対して優先されるかが指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、着信コールが優先されます。 • [最高 (Highest)] : このオプションを選択すると、復帰コールが優先されます。 <p>[未選択 (Not Selected)] に設定すると、インストール時のデフォルトデバイス プールに対する復帰コールフォーカス優先度設定が指定されます。インストール時には、着信コールが優先されます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、この設定を選択できません。</p> <p>(注) この設定は、特に保留復帰コールに対して適用され、パークされた復帰コールには適用されません。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「保留復帰」を参照してください。</p>
[ローカルルートグループ (Local Route Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイス用のローカル ルート グループとして使用するルート グループを選択します。デフォルト値の [<なし (None)>] を選択すると、ローカル ルート グループ機能は実装されません。</p> <p>ローカル ルート グループ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」の章を参照してください。</p>
[重要設定のローミング (Roaming Sensitive Settings)]	
[日時グループ (Date/Time Group)]	<p>このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日時グループを選択します。日時グループは、タイム ゾーン、および日付と時刻の表示形式を指定します。</p>
[リージョン (Region)]	<p>このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager リージョンを選択します。Cisco Unified Communications Manager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース（たとえば、保留音サーバ、トランスコーダ、会議ブリッジ）を選択します。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プールの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [なし (None)] または [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイス プール内のデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p>(注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のパラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアでサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[SRST 参照先 (SRST Reference)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Disable] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST 参照先ゲートウェイを使用できなくなります。 [Use Default Gateway] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 既存の SRST 参照先 : ドロップダウン リストから SRST 参照先を選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST 参照先ゲートウェイを使用します。
[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]	<p>この設定値は、Cisco Unified IP Phone が SRST から登録解除され、Cisco Unified Communications Manager に再登録される前に、Cisco Unified Communications Manager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>エンタープライズ パラメータの設定を使用するには、-1 を入力するか、またはフィールドを空白のままにしておきます。エンタープライズ パラメータのデフォルト値は 120 秒です。</p> <p>接続モニタを無効にする必要がある場合、または接続モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。フィールドに入力できる最大秒数は 2592000 です。</p> <p>ヒント [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値またはエンタープライズ パラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「SRST 参照先」を参照してください。</p>
[ワンボタン割込み (Single Button Barge)]	<p>この設定は、このデバイス プール内のデバイスまたは電話機ユーザがワンボタンで割り込みおよび C 割り込みにアクセスできるかどうかを決定します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン割り込み / C 割り込み機能が無効になります。 [割り込み (Barge)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン割り込み機能が有効になります。 [C 割込 (CBarge)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン C 割り込み機能が有効になります。 [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスでは、ワンボタン割り込み / C 割り込み機能のサービス パラメータ設定が使用されます。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	この設定は、このデバイス プール内のデバイスまたは電話機ユーザに対して、回線をまたいで参加機能を有効にするかどうかを決定します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、回線をまたいで参加機能が無効になります。 [オン (On)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、回線をまたいで参加機能が有効になります。 [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスでは、回線をまたいで参加機能のサービス パラメータ設定が使用されます。
[物理ロケーション (Physical Location)]	このデバイス プールの物理ロケーションを選択します。システムは、物理ロケーションとデバイス モビリティ機能を組み合わせて使用することで、特定の地域に関連したパラメータを識別します。
[デバイスモビリティグループ (Device Mobility group)]	デバイス モビリティ グループは、最上位レベルのネットワーク内の地域エンティティを表し、デバイス モビリティ機能をサポートするために使用されます。
[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)]	
[デバイスモビリティコーリングサーチスペース (Device Mobility Calling Search Space)]	デバイスがローミングされ、同じデバイス モビリティ グループに含まれている場合に、デバイス コーリング サーチ スペースで使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイス プールに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。デバイス プールに対して [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定し、デバイス設定ウィンドウで [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスをオンにした場合、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する [着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] に、このデバイス プールに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイス プール内のデバイスが位置情報と関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>設定を [なし (None)] のままにした場合、このデバイス プール内のデバイスに位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプの前缀をすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイス プールに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>
[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]	
<p>[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)] では、H.323 トランクおよびゲートウェイをサポートしています。H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 ゲートウェイ/トランク経由の着信コールに適用されるようになるには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 ゲートウェイまたは H.323 トランク経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がトランク/ゲートウェイ経由で最初に送信された値に変換されるようになります。</p>	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
[国内番号 (National Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国内 (National)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国際 (International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーマーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーマーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[接続側の設定 (Connected Party Settings)]	
[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、接続側番号を別の形式 (DID、E164 番号など) で表示するために、デバイスの接続側番号を変換できます。Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の UPDATE/re-INVITE メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。選択する [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] に、このデバイス プールに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.8-18) を参照してください。

デバイス プールの該当デバイスとの同期化

デバイスを、設定の変更を実行したデバイス プールと同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要場合があります)。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択します。
[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するデバイス プールがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期するデバイス プールをクリックします。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.8-18) を参照してください。

関連項目

- 「デバイス プールの設定」(P.8-1)
- 「デバイス プールの設定値」(P.8-1)
- 「デバイス プールの該当デバイスとの同期化」(P.8-17)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「発信側の正規化」